

## 学校における甲状腺検査に関する経過等について

令和7年2月5日  
福島県県民健康調査課

### 1 学校における甲状腺検査について

P③-69を参照。

第11回甲状腺検査評価部会(平成30年10月29日)資料3-1

第39回「県民健康調査」検討委員会(令和2年8月31日)資料2-6

### 2 「県民健康調査」検討委員会における議論の経過

#### (1) 甲状腺検査における学校での検査の現状調査

P③-71を参照。

第40回「県民健康調査」検討委員会(令和3年1月15日)資料2-4

#### (2) 甲状腺検査対象者及び関係者への聞き取りの実施

P③-73を参照。

第41回「県民健康調査」検討委員会(令和3年5月17日)資料5-5

### 3 学校における甲状腺検査の実施に係る案内フロー

P③-77を参照。



## 学校における甲状腺検査について

### ○学校における検査開始の経緯

先行検査を全県域で実施するにあたり、検査を希望する方が等しく受診できる機会を確保することや、検査会場までの移動方法の問題、保護者の負担軽減等の理由により、市町村側から、学校での検査実施の意向があった。

また、市町村教育委員会からも多数の児童・生徒が学校を休んで受診した場合、授業への影響があるとの理由から、学校での実施について要請があった。

それらを受け、県と協議のうえ、平成23年11月から学校での検査を開始した。

### ○各関係機関への協力依頼

市町村立の小・中学校の検査については、各市町村・各市町村教育委員会を訪問し説明のうえ、承諾を得て行っている。

なお、検査にあたっては、市町村教育委員会から、学校へ協力依頼を通知していただいている。

高等学校や私立学校等については、個別に訪問し、検査について説明のうえ、承諾を得て行っている。

### ○検査のお知らせ送付と同意確認書兼問診票の受理

甲状腺検査の案内（同意確認書兼問診票の用紙、受診の手引き等）は、福島県立医科大学（以下「医大」）から各検査対象者へ個別に郵送し、検査に関する同意確認書兼問診票は、医大へ返送するよう案内している。

検査時点において、同意確認書が未提出の場合等で、保護者の同意の確認がとれない場合は、検査を実施していない。

### ○検査結果

検査結果については、医大から対象者へ直接郵送している。



## 甲状腺検査における学校での検査の現状調査結果について

令和3年1月15日  
福島県県民健康調査課

### 1 実施方法等

#### (1)実施時期

令和2年9月～12月

#### (2)実施方法

県民健康調査課員が学校を訪問し、学校担当者から聞き取りを行うとともに、一部の学校においては、検査現場を視察した。

#### (3)調査を実施した学校数

合計 26 校(うち3校では検査現場の視察も併せて実施)

○種 別:小学校 12 校、中学校9校、高校4校、義務教育学校1校

○方 部:避難区域等 13 市町村 11 校、中通り 8校、浜通り 4校、会津 3校

○規 模:大規模校(1学年3クラス以上) 8校、中規模校(1学年2クラス程度) 4校、  
小規模校(1学年1クラス以下)14校

○検査実施時期:今年度 17 校、昨年度 9校

#### (4)聞き取りを行った相手

学校での検査を担当している方による対応を学校にお願いし、各学校の教頭、養護教諭等の両者あるいはどちらか一方から聞き取りを行った。

### 2 確認結果

#### (1) 検査現場の視察結果

##### ア 検査の流れ

- ① 授業担当教諭もしくは養護教諭が受診者を会場へ案内(検査の非対象者及び不同意者については会場へ案内する学校が1校、教室に残っている学校が2校だった)
- ② 会場で検査スタッフが受診者に対し検査の受け方について説明
- ③ 引率した授業担当教諭は教室へ戻り、受診者は会場で待機
- ④ 受診する受診者を検査スタッフが検査ブースへ案内
- ⑤ 受診後、受診者は各自教室へ戻る

##### イ 生徒の様子

説明を受ける時、受診待ち、受診の際いずれも落ち着いており、検査スタッフもしくは学校教諭の指示に従っていた。

##### ウ コロナウイルス感染症拡大防止対策

- ・ 会場では窓を開けるとともに、送風機を使用し換気を行う
- ・ 検査ブース内においては、検査者と受診者の間に透明なカーテンを設置
- ・ 利用した設備(椅子等)のアルコール消毒
- ・ 枕カバーは受診者ごとに交換する

## (2) 学校からの聞き取り結果

### ア 学校が行っている業務

#### (ア) 検査実施前

- ・ 日程調整(学校内部の行事等の調整)
- ・ 在籍者のデータ確認及び医大への提供
- ・ 同意確認書の提出依頼(学校から文書を生徒へ配布)
- ・ 医大(検査スタッフ)との打ち合わせ
- ・ 学校内での教職員への周知

#### (イ) 検査実施中

- ・ 教室から会場への引率
- ・ 受診者へ検査用紙を配布(検査スタッフが配布する場合もあり)

#### (ウ) 検査実施後

- ・ 欠席等により当日受診できなかった検査対象者へ検査案内文書の配布
  - ・ 対象者全員への検査のチラシの配布
- ※ 多くの学校で検査に伴う業務に対して負担感を持っていたが、大規模校における負担感が大きかった。

### イ 検査の時間は学校の何の時間(授業)をあてているのか。

- ・ 多くの学校は通常の授業中に実施していたが、一部の学校は行事の時間に実施していた。
- ・ 多くの学校で放課後に検査を行うことは生徒の通学(スクールバス等の利用)、部活、教員の勤務時間、さらに検査場所の確保の問題から難しいだろうと考えていた。

### ウ 検査実施中、検査を受診しない方については、どのように対応することとしているのか

- ・ 多くの学校で受診しない方は教室に残っていた。
  - ・ 一部の学校では受診しない方も会場に連れて行き、受診しないことを確認してから教室へ戻らせていた。
  - ・ 全ての学校で受診しない方が受診者等に何か言われるような事例は把握していなかった
- ※ 受診しない方には不同意者だけでなく、県外からの転入等による検査の非対象者もいる。

### エ 学校で実施することについて、対象者及び保護者はどのように受け止めていると思われるか。

- ・ 全ての学校で検査について保護者から特に意見はないため分からないと話があった。
- ・ 一部の学校からは、学校での検査が受診しやすいことから受診しようとする保護者がほとんどではないかとの話があった。
- ・ 一部の学校からは、保護者は10年近く実施していることや、2年に1回実施することから、検査が当たり前であると考えているのではないかと話があった。

### オ 検査のお知らせ文が変更されたことについて、対象者及び保護者はどのように受け止めていると思われるか。

- ・ 今年度検査を実施したすべての学校から保護者から意見がないため分からないと話があった。
- ・ 一部の学校からは自分が受診するかどうか分かっていない対象者もいたとの話があった。

## 甲状腺検査対象者及び関係者への聞き取りの結果について

令和3年5月17日  
福島県県民健康調査課

### 1 目的

甲状腺検査のあり方を検討していく上で、甲状腺検査の対象者及び関係者から甲状腺検査に対する意見、考え方等を直接聞き取りし、今後の検討委員会における議論の参考とするため。

### 2 実施概要

#### (1) 実施日

令和3年3月中に5日間で実施

#### (2) 実施方法

進行役と対象者（1人）によるインタビュー形式により、1時間程度聞き取りを実施

※県事務局が2名程度同席

当日資料として「甲状腺検査のお知らせ」等を対象者へ提示した（参考資料4）。

#### (3) 進行役

医療法人コメディカル江口病院 副理事長 江口 有一郎 氏（医師）

※ 次の条件を満たし、かつ聞き取り調査等の経験を有する方を依頼した。

ア 県民健康調査甲状腺検査と直接関わっていない方

イ 医学的知識を有する方

#### (4) 聞き取り対象者

それぞれ関係団体から推薦いただいた。

なお、今回の聞き取り対象者は地域や学校、団体、検査対象者本人、保護者等の代表者として発言したものではない。

ア 検査対象者本人（計3名）

県内高校生（中通り、会津、浜通りから各1名）

イ 保護者（計6名）

中学生の保護者（中通り、会津、浜通りから各1名）

高校生の保護者（中通り、会津、浜通りから各1名）

### 3 聞き取り結果の概要（聞き取り結果は参考資料5及び6のとおり）

#### (1) 検査は不安や心配があって受けているのか

ア 検査対象者本人

- ・ 不安はない。多分大丈夫だろうという意識。
- ・ 小学校からやっているから自然な流れで。

イ 保護者

- ・ 最初は不安だから検査は積極的に受けさせたいと思った。
- ・ 時間が経って心配が減っているので話題が薄れている。不安だね、などの会話は無い。

(2) 検査を受けることが当たり前、習慣等と思って受けているか。

ア 検査対象者本人

- ・ (学校で行う) 内科検診と一緒に。

イ 保護者

- ・ 検査の通知が来たらみんなが普通だと思って受けている。習慣化しているわけではない。受けているから受け続けなくてはという感じ。こういう時代に生まれて怖いから受けるというのがベースなのではないか。
- ・ そう思っている。満期になるまで (検査が終わるまで) 受けたい。

(3) 検査を受けて (受けさせて) 良かったことは何か

ア 検査対象者本人

- ・ 安心。
- ・ 最初から受けるものだと思っているので、良かったとは (特に思わない)。

イ 保護者

- ・ 安心材料。

(4) 検査を受けて (受けさせて) 嫌だと思うこと、心配に思うことはあるか

ア 検査対象者本人

- ・ とくにはない。

イ 保護者

- ・ なかった。
- ・ 一回引っかけたとき (二次検査になったとき) は心配しました。その後、また引っかけると思ったが、何もなくて安心した。

(5) 学校で検査を授業中に行っていることで、検査を受けなくてはならないもの (強制のもの、義務的なもの) と思ってしまうか。

ア 検査対象者本人

- ・ させられているというよりは内科検診と同じ感じ。便利。
- ・ 受けること自体に損がないと自分は思っているので、大丈夫だと思う。
- ・ 時間をとってやるというのはあるので、受けないのが変かなと思う。

イ 保護者

- ・ 半強制みたいな感じだが、親としては学校に行っているうちにできるのはありがたい。
- ・ (学校の) 健康診断と一緒にです。そこまでの圧力は感じない。

(6) 検査が学校以外で実施されていた場合、検査を受診しているか。

ア 検査対象者本人

- ・ 病院で自主的にというと、親だったら勧めると思うが、自分の意思なら行かない。

イ 保護者

- ・ 毎回はいけないかもしれない。今の方が受けやすい。どんなお母さんにとってもそう。



- ・ 受けさせていたと思う。あくまでも自分たちの安心のために連れては行っていた。県も親も子どもも安心だというためにやるものだと思う。
- ・ 行かないと思う。知識的に「いや」という考え。

(7) 高校を卒業して自分で受けに行くとなった場合、検査を受診するか（子どもに受診してほしいと思うか）

ア 検査対象者本人

- ・ 大学に行って、県内なら受けると思うが、県外なら受けないと思う。受けられる環境であれば。
- ・ 受けない。4、5回受けてきたが、正常だったので大丈夫かなと過信している。

イ 保護者

- ・ 受診して欲しいと思う。一方、日々の生活が忙しくなれば、受けたい気も薄れていくと思う。

(8) 高校卒業後に受けない場合、どういったサポートがあったら受けることを考えるか。

イ 保護者

- ・ まず行くのが面倒くさいので自分の近いところで受けられるように、地方に行ってもできるように。
- ・ 帰ってきたときにいつでもできるようにするのがいいのでは。

(9) 検査にデメリットがあることは知っているか。

ア 検査対象者本人

- ・ デメリットはあまりないと思う。

イ 保護者

- ・ デメリットはないと思う。
- ・ デメリットは、前はなかったのがう胞が見つかったなど心配事が増えること。

(10) 検査をしなければ一生見つからない甲状腺がんもあると言われており、検査で見つかることにより、手術やその後の薬の服用を続けなくてはならない場合も起こりうるがそのことをどう思うか。

ア 検査対象者本人

- ・ （がんがあることを）知らないことの方が不安ではあります。
- ・ （がんがあるとわかったら）放っておけない。

イ 保護者

- ・ 検査について情報は圧倒的に少ない。メリット・デメリットの説明会をもっときめ細やかにやるべき。
- ・ 見つからないで手遅れになるよりは見つかった方が良い。
- ・ 当時の福島は、新型コロナウイルス以上の心配があった。今まではその流れで安心・安全をとってきた（検査を受けた）。（がんが）見つかったからどうするかは自分で選択すればいい。



## 学校における甲状腺検査の実施に係る案内フロー



